

1. 総評

(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】

1. 学校の現状

今年度創立118年を迎える、歴史と伝統ある学校である。現在は特別支援学級1学級、通常学級12学級の編成である。また昨年度から特別支援教室（のびのび）が開設した。

児童ははつらつとしており、どんなことにも前向きに取り組んでいる。これまでの学習内容の確実な定着と、学んだことを元にして更に難しいことや新しいことに挑戦する意欲を高めたい。心の育成では、優しく朗らかである一方、すすんで挨拶することについては個人差がある。外遊びを好む児童が多く、休み時間にも校庭で元気で遊んでいるが、体力面では投力に課題があり、昨年度から体育の授業等を中心に投力の向上に取り組んでいる。

教職員は、日頃の情報交換や職員夕会、職員会議、生活指導全体会、特別支援委員会等の機会を活用し、児童の実態把握と指導やかかわりの方向性を共有している。スクールカウンセラー（以下SC）、スクールソーシャルワーカー（以下SSW）、その他の職員がそれぞれ果たすべき役割を果たし、連携しながら児童を育成している。

保護者には、日頃から本校の教育活動にご理解とご協力をいただいている。学校評価に際しては、アンケートを実施し、保護者にも文書で配布し教育活動の充実に生かすよう努めている。丸付けや図書のボランティア、校外学習の際の付き添い、長期休業中のパトロール等についても年間を通して活動してくださっている。運動会での駐輪場の見守りや後片付け、年に1回の子どもまつり等の行事では、PTAが中心となって子供たちのために汗を流している姿が見られている。

地域は、二代、三代と続いている本校の卒業生である家庭もあり、古くから学校に愛着を感じ大切にしてくださっている。開かれた学校づくり協議会の方々をはじめ、青少年委員、民生・児童委員、町会や自治会の方々からのご支援は熱く、朝の見守りや各種行事等を通して本校の児童と関わりながら健やかな成長を見守ってくださっている。放課後子ども教室、サタデーサークル、子どもまつり等では、地域、保護者、家庭の三者が協力して子供の居場所、活躍の場を作っている。

2. 前年度の成果と課題

学力向上において、教員の授業力向上、家庭学習習慣の確立、読書活動の充実の3つに取り組んだ。授業観察については、教科指導専門員、主幹教諭、管理職等が計画的に進め当該教諭と成果や課題を共有することで、改善の方向性が明確になった。基礎的・基本的な学力の定着が不十分であること、学んだことを活用して新しい学びに向かう力の育成が課題である。家庭学習の習慣については、家庭学習の内容を工夫したり自己評価や家庭からのチェックを活用したりした。習慣が身についていない児童に対する働きかけ、家庭の協力の得方等が課題である。読書活動については、図書支援員の配置により、図書ボランティアと協力して学校図書館の蔵書の整理等、環境改善に大きな成果が見られた。

規範意識の醸成については、全教職員の児童の実態把握と支援の方法の共有、道徳教育の充実、SCやSSWとの連携に取り組んだ。日頃の情報交換や会議等における協議、アンケートの実施等により、児童の実態に基づいた指導を心がけた。「言われて守る」から「自分で考えて守る」児童の育成を目指している。道徳教育については、今年度からの教科化を見据え、課題解決型の道徳の授業を実施した。体験学習を取り入れた道徳の授業、教科としての道徳の評価のあり方について、さらに教員全員で学び合っていく。SC、SSWからは、特別支援委員会のメンバーとして専門的な見地からの意見を得るとともに、児童や保護者の面談の機会の設定、教員との情報共有、児童及び保護者との望ましいかかわり方についての指導・助言を受けた。

体力向上については、投力を伸ばすこと、生活習慣の改善、オリンピック・パラリンピック教育の推進に取り組んだ。区の体力向上推進校として、本校の課題である投力に特化し体育の授業で様々な種目に取り組ませたり、放課後子ども教室においても児童が楽しく投力を伸ばせるような活動を取り入れたりしていただいた結果、平均して0.7mの伸びが見られた。生活習慣については、保護者会や学校保健委員会、各種おたよりでの啓発を図ったが、就寝時刻については課題が残った。オリンピック・パラリンピック教育の推進では、全学級が関連した授業を行うとともに、パラリンピアンの来校やマスコットの投票等で、関心の高まりが見られた。授業だけでなく、休み時間や集会を活用した体力の向上、生活習慣の向上についての意識啓発を今後も進めていく。

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組の概要

重点的な取組事項-1 基礎学力の定着

- ・授業力向上のために、高学年一部教科担任制を導入し指導の専門性を高めた。また教科指導専門員、管理職、主幹教諭等による授業観察及び指導を計画的に進めた。
- ・家庭学習の習慣を確立させるために、家庭学習の内容と児童・保護者の意識を高める工夫を行った。

- ・読書活動の充実のために、読書カードの活用、図書ボランティアや本校の教員による読み聞かせ、図書委員会児童、図書支援員、図書ボランティアによる学校図書館の整備を行った。

重点的な取組事項－2 自ら正しく判断し、行動する心の育成

- ・児童の実態把握と適切な指導について、日頃から児童の情報及び指導を教員間で共有した。また特別支援委員会、いじめ対策委員会の定期的な開催、QUやいじめの調査の活用も図った。
- ・道徳教育の充実のために、道徳推進教師による評価等も含めた研修会を実施した。小中連携研修会においても、道徳の教科化について講師を招き教員の理解を深めた。
- ・特別支援コーディネーター、SC、SSWと連携し、特別支援委員会、生活指導部会において情報を共有したりアドバイスを受けたりし、児童・保護者に対し多面的にアプローチした。

重点的な取組事項－3 体力向上

- ・前年度の計画の見直しと改善を図り、投力向上に向けて全校で取り組んだ。放課後子ども教室においても、投力を向上させる遊びを取り入れた。
- ・生活習慣を改善するために、授業や集会、保健だよりや給食だより等において健康に関連した話題を計画的に取り入れた。また学校医やNPO法人と連携した授業、研修会を実施した。
- ・オリンピック・パラリンピック教育の推進に向けて、関連した授業、コーナーの設置を行った。

(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－1 基礎学力の定着

- ・朝学習、放課後と長期休業期間中の補充指導を計画的に行った。前学年の診断テストや定着度確認テストの結果を見ると、約8割の児童の国語と算数の既習事項が定着した。
- ・家庭学習習慣については、2割の児童について不十分であった。
- ・授業力向上については、校内の研究テーマを「足立スタンダード」と関連付け、課題解決型の授業を教員全員が習得できるようにした。
- ・読書活動や新聞を使った学習については、各学級での取組が定着した。
- ・これらの取組の精度を上げるために、児童のつまずきの明確化と適切な補充指導、「足立スタンダード」の徹底が必要である。

重点的な取組事項－2 自ら正しく判断し、行動する心の育成

- ・週1回の生活指導夕会、特別支援委員会、いじめ対策委員会等を通して、教員間の情報と指導の在り方の共通理解を図った。またSCやSSWとも連携し、専門的な見地からのアドバイスを受けたり、児童や家庭への働きかけを依頼したりすることができた。QU調査や個別指導計画等をさらに活用し、児童理解を進めていく。そのことが不登校対策にもつながると考える。
- ・道徳の教科化に伴い、評価の在り方をはじめとした校内研修を実施した。児童に考えさせる道徳の授業ができるよう、さらに研修を深める。

重点的な取組事項－3 体力向上

- ・運動能力の中でも課題である投力の向上に向けて、前年度の計画を改善し、全学級で体育の時間を中心に取り組んだ。結果として、全校平均で0.8メートルの伸びとなった。
- ・生活習慣を改善するために、朝会や発育測定における講話、保健だよりや給食だよりを通じた啓発を行ったが、早寝早起きの習慣化については改善に至っていない。保健師による授業、NPO法人を招いての健康に関する研修会は行うことができた。
- ・オリンピック・パラリンピック教育については、関連した授業を計画的に行った。今後はボランティアマインド、障害者理解につながる取組を進める。

(4) 保護者や地域へのメッセージ

日頃から本校の教育活動に対するご理解とご支援をありがとうございます。
今年度の成果と課題を教職員全員で共有し、次年度さらに教育活動が充実するよう努めてまいります。引き続きのご協力をよろしくお願いいたします。

2. 平成30年度の重点的な取組事項

<達成度 ◎:十分に達成 ○:おおむね達成 △:達成せず ●:課題が残る>

重点的な取組事項－1 学力向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
既習の学習内容の定着	全学年平均8割以上	全学年平均して、国語・算数ともに8割以上の通過率となった。	学年、学級による差を、今後は解消する。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
-------------	------	--------	------	---------	-----

目標実現に 向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
別紙「平成30年度学力向上アクションプラン」評価シート参照					

重点的な取組事項－2　自ら正しく判断し、行動する心の育成

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
善悪の判断を自ら行い、その判断に基づいて行動する心を養う	「花畠小学校」のきまりの項目を守る児童を8割以上にする	全ての項目を平均すると、7割の達成率にとどまった。	ほとんどの児童ができるいる項目もあった。今後は重点項目を絞った指導が効果的であると思われる。	△

目標実現に 向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
児童の実態把握と適切な指導についての共有	いじめの解消率100%	<ul style="list-style-type: none"> 生活指導夕会、生活指導全体会における情報と指導の共有 特別支援委員会、いじめ対策委員会の設置と活用 QU調査、区調査等の活用による児童理解 	<p>100%に近い解消率となったが、全件の解消には至らなかった。</p> <p>・情報及び指導の共有は生活指導夕会、生活指導全体会を通して実施できた。</p> <p>・各種調査については、さらに早めの分析と分析結果をもとにした活用が必要であった。</p>	<p>・情報共有や対応策はできている。未然防止策を充実させる。</p> <p>・学級の安定は児童の学力や心の育成に大きく関わるものである。早期に分析し活用していく。</p>	△
道徳教育の充実	問題解決型、保護者や地域と連携した道徳の授業の全クラス実施	<ul style="list-style-type: none"> 道徳推進教師による校内研修会年4回 問題解決型、地域や保護者とのT・Tによる道徳の授業の実施と公開 	<p>道徳の授業の工夫は今一つであった。</p> <p>・評価の在り方や記述の仕方をテーマに、研修会を実施した。</p> <p>・問題解決型、保護者をT・Tとした授業は全学級では実施できなかった。</p>	<p>・道徳に関する研修会は、計画通りに実施できた。</p> <p>・教師それぞれが工夫して道徳の授業を行ったが、今後は外部人材も活用する。</p>	○
特別支援コーディネーター、SC, SSWとの連携	特別支援コーディネーター、SC, SSWによる校内研修会の年3回実施	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、児童との面談の設定 特別支援委員会、生活指導部会の一員として、専門的な立場からの指導・助言 	<p>特別支援コーディネーター、外部講師を招いた研修会を、3回実施した。</p> <p>・SCと保護者、児童との面談を継続して行った。</p> <p>・専門的な見地からのアドバイスを、特別支援委員会において受けることができた。</p>	<p>来年度も、特別支援教育に関する研修を継続して行う。また保護者の理解をさらに深める機会を増やしていく。</p>	○

重点的な取組事項－3　体力向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
健康や運動について関心をもたせるとともに、運動能力調査の結果を向上させる	運動能力調査において、投力の結果を全校平均1メートル伸ばす。	全校平均で0.86メートルの伸びとなった。	授業や休み時間において、更に取組を充実させていく。	△

目標実現に 向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
-----------------	------	--------	------	---------	-----

目標実現に 向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
投力を伸ばすための全学年の取組の推進	年2回の投力調査において、2回目の結果を平均で1メートル以上伸ばす	・前年度の計画の見直しと改善。全体計画の改訂版を作成し、体育の授業、休み時間、体育朝会における発達段階に応じた取組の展開 ・放課後子ども教室との連携による取組の強化	・学年により伸びに差が出ている。 ・投力に関する取組を改善し、全学級で授業を中心として取り組んだ。 ・放課後子ども教室においても、投力を楽しみながら伸ばす取組を行った。	・今年度成果が上がった取組を改善し、継続して行う。 ・子ども教室の協力は、非常にありがたい。楽しみながら取り組んでいた。	△
生活習慣の改善	年3回の「生活しらべ表」の結果、よい結果を平均して85%以上にする。	・授業や学級の朝の会、全校朝会や発育測定等における、計画的な保健指導 ・学校医を講師とした学校保健委員会や薬剤師による喫煙防止教育の授業などの、外部と連携した保健指導 ・保護者会、PTA常任委員会、保健だより、給食だより等による、児童の健康についての保護者の啓発	・直近の「生活しらべ表」の集計結果によると、良い結果の人数の割合は、約78.6%であった。 ・全校朝会や発育測定において、健康をテーマとした話題を計画的に取り上げた。 ・保健師と連携した授業、NPO法人による研修会を行うことができた。 ・保護者会やPTA常任委員会、各種おたよりを通して、保護者の啓発を行った。	・健康をテーマとした講話、外部機関と連携した授業や研修会、保健だより等の発行は計画通りに実施できた。 ・児童や保護者の健康に対する意識をさらに高める働きかけを充実させる。	○
オリンピック・パラリンピック教育の推進	オリンピック・パラリンピックをテーマとした学習の、各学級年3回以上の実施	・全体計画に基づいたオリンピック・パラリンピックに関する授業の実施 ・体育委員会や各学年の掲示物を活用した、オリンピック・パラリンピックコーナーの設置	・全学級で、オリンピック・パラリンピックに関する授業を行った。 ・コーナーを設置し、児童の興味・関心を高める工夫をした。 ・ボランティア精神、障害者理解についての取組の充実を図る。	・オリンピック・パラリンピック関連の授業とコーナーの設置を来年度も行う。 ・ボランティア精神、国際理解、障害者理解等につながる取組をしていく。	○

3. 学校活動全般について

児童の心身の成長のために、全教職員で教育活動の充実に力を注いできた。今年度の成果を共有し、課題を真摯に受け止め来年度さらにより良い学校づくりに取り組んでいきたい。